

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川医科大学研究フォーラム (2016.3) 16:94-95.

第24回(一社)日本有病者歯科医療学会総会・学術大会開催のご報告

松田 光悦

## 学界の動向

# 第24回（一社）日本有病者歯科医療学会総会・ 学術大会開催のご報告

松田 光悦\*

皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

このたび、第24回（一社）日本有病者歯科医療学会総会・学術大会の大会長をご指名頂き、平成27年3月20日（金）から22日（日）の3日間、旭川市大雪クリスタルホールにおきまして本学会の総会・学術大会を開催いたしました。全国から約600名の会員の参加を頂き、全身的に基礎疾患を有し、専門各科によって種々治療を施されている患者の、歯科および口腔外科治療についてのご発表と活発な討論が行われました。本学会会員の皆様や事務局の皆様からのご指導ご鞭撻を賜り、本学の先生方をはじめ、旭川市医師会、旭川歯科医師会そして北海道歯科医師会などの多くの皆様からご協力をいただき、お陰様で成功裡に終わることが出来ました。この場をお借りしまして、心より御礼申し上げます。

本学会はおよそ1500名の歯科医師によって構成されており、近年の超高齢社会を背景に会員数が増加の一途をたどっております。歯科衛生士の参加も、徐々に増えてきており、数年前より学術大会時に歯科衛生士セッションが開催されるようになってきております。

本学会名の『有病者』とは、全身的な基礎疾患を保有し、各専門科の医師による何らかの治療を受けている患者のことを指します。心・循環器疾患や抗血栓療法を受けておられる患者の歯科治療、特に口腔内局所麻酔を行い、何らかの歯科口腔外科の治療に際しては十分な注意が必要であり、また骨粗鬆症やガンの骨転

移などで用いられる薬剤（ビスホスフォネートなど）の服用患者では顎骨壊死の予防が話題になっております。その他がん治療、各種移植医療、心・血管外科治療時の病巣感染予防を主たる目的とした周術期口腔機能管理など、本学会は基礎疾患保有患者の歯科・口腔外科治療について歯科医師をはじめ歯科医療従事者の知識・技術を広め、強固な医科歯科連携を構築していくことを目的としております。

2025年以降、我が国では人口の30%以上が超高齢者となり、疾病構造も急性期から慢性期へとシフトしていくといわれております。また国の示すグランドデザインにおいても病院から居宅、在宅を中心とした地域包括ケアという方向へ移行し、病気とともに生活を送る人が多くなることが予想されます。このような時代に脳血管障害、心循環器疾患、抗血栓療法、糖尿病、各種がんなどの治療を受けている基礎疾患保有患者に対しより安全、安心な歯科医療を提供することは、我々歯科医師の責務であり重要な課題でもあります。



\*旭川医科大学 歯科口腔外科学講座

このような観点から、本学術大会では、「有病者歯科医療の新たな展開—高齢化社会における医療連携の強化を目指して—」というテーマを掲げさせて頂き、これまでの「基礎疾患保有患者の歯科治療をどのように行うか」から「担当医師の行う基礎疾患治療や患者の質の高い生活保持に貢献する歯科医療」を目指して開催いたしました。

そのためにこれからの超高齢社会における歯科医師、歯科医療のあり方、疾患構造の変化や基礎疾患に対する治療の変化、進歩などについて特別講演、基調講演をはじめ、2題の教育講演、4つのシンポジウムを企画しました。特別講演は精神医学の観点から「超高齢社会とメンタルヘルス」と題し、いかに長生きするだけでなく、いかに精神的に充実した人生を送れるかについて旭川医科大学精神医学講座教授の千葉茂先生に貴重なご講演を頂き、多くの会員が拝聴しておりました。さらに基調講演として北海道歯科医師会会長で日本歯科医師会副会長の富野晃先生に「医療連携を阻む要員とそれへの対応—歯科医師の超高齢社会での存在価値—」のタイトルで歯科医師にとって大変貴重なご講演を頂きました。また、本学会理事長の今井裕先生には理事長講演として、今後本学会が果たすべき役割についてご講演を頂きました。教育講演では、旭川医科大学医学部内科学講座病態代謝学分野講師の安孫子亜津子先生に最近の糖尿病治療、特にインスリン治療と低血糖について、また同臨床検査医学座

教授の藤井聡先生に新旧各種抗血栓薬についてのご講演を頂きました。会員にとって大変有意義かつ有益なものでした。この場をお借りし、改めて演者の皆様にご挨拶申し上げます。その他、歯科衛生士セッションをシンポジウム形式で企画し、ランチョンセミナー2題、学術教育研修会、ICD認定講習会が行われました。

一般演題の口演発表65題、ポスター発表70題を含め合計159題の発表とそれぞれに活発な質疑応答が行われ、充実した3日間となりました。

3月中旬の旭川、学会開催に当たり天候が最も心配されましたが、今冬の旭川はいつもより少雪で、雪解けも早く進み、学会期間中はお陰様で晴天に恵まれました。学会の神様(?)が、味方してくれたのだと勝手に思っております。

このような学会が旭川市で開催されたことにより、この超高齢社会における歯科と医科との連携がいかに重要であるか再認識されたものと思います。私どもも今まで以上に、地域における患者に質の高い生活を保持して頂くために、歯科医療を通して貢献していくよう医科との連携を強化し努力して参ります。今後ともどうぞよろしくご指導をお願いいたします。

皆様方のご協力のお陰で、第24回(一社)日本有病者歯科医療学会総会・学術大会が盛会に終了いたしましたこと、改めて感謝を申し上げまして学会開催のご報告とさせていただきます。

